

# 令和5年第1回定例会 所信表明

## 子育て応援の取り組みで 伊万里市を将来の飛躍へと導く

市議会第1回定例会（2月議会）で、深浦弘信市長が市政運営について所信表明を行いました。その一部を紹介します。



今年はSAGA 2024 国スポの競技別リハーサル大会が行われます

### 【市政運営の基本方針】

人口減少と少子化対策を最大の課題と位置付け、これまで取り組んできた子育てを支援する施策や移住・定住を促

進する施策のさらなる拡充が必要だと考えています。

加えて、コロナ禍で大きく変化した常識や生活様式に適応しながら、落ち込んだ交流人口の回復と拡大、デジタル技術を活用した産業の振興などによる地方創生の推進、さらには世界規模で求められている脱炭素社会の構築など、直面する諸課題についても未来への展望を持って取り組みを展開していく必要があると強く感じています。

人口減少に歯止めをかけ、九州西北部における活力創造拠点として持続的な発展を目指し、『第6次総合計画後期基本計画』で重点施策に位置付けた『いまりSTEP UPPプロジェクト』の2023年版に取り組みます。

子育て支援、デジタル化の推進、産業振興、港湾機能の

拡充、SDGs推進の5つの施策を市民の皆さんとともに力強く進めることにより、市民一人一人が生き生きと活躍し、心から幸福だと実感することができ伊万里市の実現を目指します。

特に、子どもは希望の泉であり発展の原動力となることから、子育て応援の取り組みは、本市を将来の飛躍へと導く大切な投資であると考え、若者が希望にあふれ子どもたちの笑顔があふれるまちづくりに力を注いでいきます。

### 【主要な施策】

いまりSTEP UPPプロジェクト2023年版では、5つの都市像の実現に向けた具体的な取り組みを進めます。

**第1『未来を託す子育て応援都市』**  
子どもの成長と子育てを『支える』、若者が伊万里で子育てしたいと『感じる』、子育ての場として『選ばれる』の3つの視点から『子育て・若者成長応援パッケージ』を構築し推進していきます。

まず、子どもの成長と子育てを『支える』取り組みとして、子どもの医療費の一部助成に加え、高校生などの入院費の一部助成や就学前児童の医療費を実質無料化するな

ど、さらなる経済的負担の軽減に取り組みます。

また、妊娠期から出産、子育て期までの一貫した伴走型の相談支援に合わせ、出産・子育て応援給付金を給付するほか、子どもの健康や成長の記録をデータ化し、妊娠週数や子どもの年齢に応じた最適な情報を提供できる母子健康手帳アプリの導入など、デジタル技術の活用について検討を進めます。

次に、若者が伊万里で子育てしたいと『感じる』取り組みとして、学校において一人一人の理解度に応じた創造性を育むICT教育を推進するほか、子どもがSDGsを身近に感じられる活動の機会を提供するなど、経験や体験の場が充実し子どもが自らの力で育つ『子育て』を支援するまちづくりを進めます。

佐賀県が設置を進める県立大学を誘致するため、半導体、造船、IT関連企業など50の市内企業などからなる高等教育機関誘致推進協議会を設立しました。高校卒業後の若者の市外流出が続く本市にとって、高等教育機関の誘致は悲願であり、公民連携による誘致を推し進め、産業の発展に

不可欠な専門性が高く実践的な教育を受けることができる環境の整備に努めます。



県立大学誘致を佐賀県知事に要望しました

次に、子育ての場として『選ばれる』取り組みとして、伊万里ならではの子育て情報をSNSなどでわかりやすく発信するほか、伊万里ファミリーパークにおけるインクルーシブ遊具の設置や公園の長寿命化計画に基づく遊具の更新などによる公園の再生に取り組みなど、子育て環境の充実に努めます。

### 第2『未来を先取るデジタル都市』

国が取り組む『デジタル田園都市国家構想』を強い追い風として、デジタルの力で地方創生の取り組みを加速し深

化させる伊万里市版の『デジタル田園都市構想総合戦略』を策定します。市民生活のあらゆる場面で、デジタル技術を活用したデジタルトランスフォーメーション（DX）を強力に推進することによって産業の振興や市民サービスの向上、地域の活性化などに取組み、誰もが便利で快適に暮らせる社会の実現を目指します。

産業の振興として、企業の経営改善に向けたDXの取組みを促進し、農業においては、デジタル技術を活用した作業の省力化などによる生産性の向上や担い手不足の解消を図るため、スマート農業の導入を促進するほか、観光では、位置情報を活用した人の流れや宿泊予約状況などのビッグデータを分析し結果に基づいた戦略的な施策を展開します。

また、デジタル化による市民サービスの向上として、証明書などの申請手続きや集団健診の予約受付などのオンライン化の推進に加え、複数の窓口での申請が必要だった行政手続きについて、業務手順を見直し、一元化した窓口で対応し手続きに要する時間の

短縮につなげる『書かない窓口』の導入について検討を進めます。



ITツールやサービスに直接触れるDX推進フェアを開催しました

### 第3『競争に打ち勝つ産業都市』

福岡市と西九州自動車道で直結する利点を最大限に生かし、伊万里焼や伊万里牛、伊万里梨などの伊万里ブランド、また、造船や半導体関連企業が集積する本市の利点をアピールし九州西北部における活力創造拠点として地域のさらなる活性化を図ります。

特に、観光分野において、従来からある本市の観光資源の価値を再評価し今の時代に合った新たな魅力を加える『リブランディング』に取り組みほか、旅行事業の取り扱いは開始する観光協会を強力に支援し本市への誘客活動の拡

大に取り組みます。

また、大川内山地区の新たな観光の魅力づくりとして、低速度の電動車を活用した移動サービスである『グリーンスローモビリティ』の導入を進めるなど、時流を捉えたシニアプロモーション活動を展開します。

さらに、伊万里駅に高校生などの駅利用者の休憩やまちづくり団体などのイベントに利用できるリーススペースを設置するほか、企業委託型の地域おこし協力隊が行う空き店舗へのIT企業などの事務系企業の誘致や起業への支援による若者の就業機会の創出などに取り組みます。



羽田空港で伊万里プロモーションフェアを開催しました

### 第4『世界に向けた港湾都市』

浦ノ崎地区の開発を促進するため、次世代エネルギーの切り札として世界が目指す洋上風力発電の関連企業の誘致などに向けた協議会を設立し、市内企業や関係機関との連携による技術的な情報共有を行うほか、セミナーなどの開催により誘致への機運の醸成に努めます。

また、コンテナ貨物の取扱量の増加を図るため、東南アジアや台湾との直行航路の誘致など佐賀県伊万里港振興会の取り組みを支援するほか、将来における伊万里港の開発を見据えた中期ビジョンの策定や港湾計画の改訂に佐賀県と一体になって取り組みます。

また、伊万里ファミリーパークやその周辺に海に親しむ公園の整備を検討します。

### 第5『SDGs推進都市』

市民図書館を環境学習の拠点となる『カーボン・ニュートラル・ライブラリー（CNL）』と位置付け、太陽光パネルの設置や電気自動車の導入を図るなど、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを展開します。また、移住者のニーズを把握し、定住を促す活動を強化します。

さらに、地域おこし協力隊員や大学生を中心とする関係人口の創出活動を展開する地域活性化起業人など、民間人材による新たな視点からの地域課題の解決やにぎわいづくりを促進し、将来にわたって安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進します。

SDGsに掲げられた17の目標は、私の市政運営の方向性と合致するところであり、伊万里市版SDGsの取り組みを展開し、将来世代に引き継いでいくことのできる持続可能な伊万里市づくりに、市民の皆さんとともに邁進していきます。



いまりSDGsスクールを開催しました